

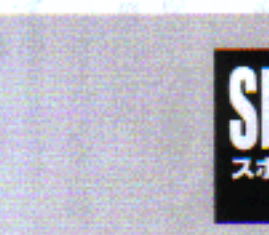
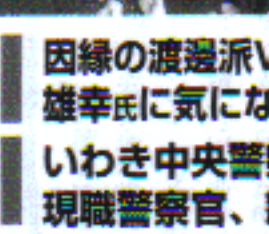
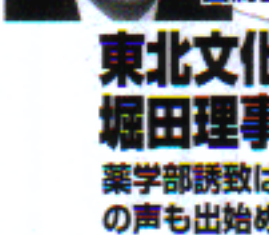
月刊タクティクス

積水ハウスで自殺者相次ぐ!!

何がそれ程までに社員を追い詰めるのか？
積水ハウスには魔物が住んでいる？会社への`恨み、の遺書？は何を意味する！？

東邦銀行で今、何が起きているのか！？

`脅迫か？本店のみならず頭取の自宅まで異常な警備ぶりは、何を意味する？



伊藤・郡山市議、ついに健康保険法違反で逮捕！そして辞職

捜査当局の`本丸、は、やはり政務調査費詐取事件だった!!

佐藤知事、五選出馬に渦巻く批判

出馬要請は、知事の顔色を`伺っている、だけなのに!?

大高善兵衛サン、

感性が疑われますよ!

場所をわきまえない発言に周囲はキョトン?

東北文化学園大学・堀田理事長の所得隠し問題

薬学部誘致は、藤森市長の命取りに！
の声も出始める! 今尚つきまとう誘致経緯の`疑惑。

もうこんなシ烈な 戦いは止めてくれ!

剛男VS偉民の死闘を受け伊達郡議長会が、
自民党県連に異例の申し入れ

浮き彫りになった幸楽苑の ズサンな危機管理ぶり!!

腐った中華スープを店頭に！
違法なサービス残業、
これらは企業体質に起因!?

大東銀行、「裏」の経営戦略!?

赤字のツケ回しは顧客に!?

内部告発、そして顧客が告白する悪質な手口とは？

因縁の渡邊派VS遠藤派の対決も
雄幸氏に気になる前回のシコリ! (川内村長選)

いわき中央警察署幹部の目に余る破廉恥さに
現職警察官、怒りの内部告発!!

県庁マンよどこへ行く！
福島市をゴーストタウンにする気か!?

東白衛生組合の委託業者(塙町)に浮上した
役場職員等が絡む利権漁りの疑惑!!

SPOT
スポット



小高町
江井 穂可貴

FILE
人物ファイル



北塩原村
高橋 保和夫

緊急 レポート

積水ハウスで自殺相次ぐか？ 何がそれ程までに社員を追い詰めるのか？

この一月十八、十九日(土・日)の二日間、郡山市安積町のビックパレットで積水ハウス
側主催のイベント「福島新春住まいの博覧会」が開催された。販促アップを狙った一大企画だっ
たが、主力となった郡山支店のスタッフ達には何故か精彩が無かったと言われる。

郡山支店には、いくつかのハウス展示場があるが、その中の一つ、安積町の「FTVハウ
ジングプラザ」内にある展示用木造ハウスの中で、このイベントの前日、店長が首を吊って
自殺していたのだった。

情報によると会社への恨みつらみが書かれた遺書が床に置いてあったと、驚くこ
とに過去にも数人が自殺していたというのだった。調査の結果、それは事実であることが判
明した。しかし、当の積水ハウス郡山支店は自殺を全面的に否定、そればかりか藉口を敷
き本誌への取材拒否の姿勢を示したのだった。

何故、それ程までに自殺を否定し周辺をガードしなくてはならないのか。何故、それ程ま
でに事実を隠そうとしなくてはならないのか。積水ハウスには従業員を死に導く魔物でも住
んでいるというのか。本号からこの新たな疑問に斬り込んでいきたい。

積水ハウスで自殺 者が相次いでい る？

二月五日(木)の朝、本誌に
一本の匿名の電話が入った。こ
の情報提供者については中年の

男性、と幅を持たせた表現に止
めておこう。その情報の要旨は
「今から十日以上前に積水ハウ
スの郡山市安積展示場で店長が
自殺したことをご存知ですか？
店長が会社への恨みつらみを書
いた遺書を床に四く五通残して、
展示場内で首を吊って自殺した

のです。一年程前にも郡山市朝
日の展示場の店長であった人間
が自殺しています。白河市の展
示場のスタッフも自殺、宮城県
仙台市でも、山形でも自殺があっ
たと聞いています。今、とにか
く積水ハウス内では自殺者が相
次いでいるので、何故、そのよ

うなことになっているのかタク
テイクスさんでは是非取り上げて
頂きたい」というものだった。
前号(通巻130号)におい
て金賀・栗出納長の自殺問題を
報じたばかりだっただけに、普
段はあまり報じることの少ない
「自殺」についての情報が寄せ
られたのではないかと、と電話を
受けたスタッフは感じたという。
この匿名電話の内容の真偽は別
にして、亡くなっているのは一

人二人ではなく数人に及んでい
るということに、驚きと一緒に
興味をそそられた。事件性は分
からないが、積水ハウスそのも
のの体質に何か問題があるので
はないのかと思われる。
二月六日(金)、記者は早速、
寄せられた情報にあった郡山市安
積町の「福島テレビ(FTV)ハウ
ジングプラザ郡山」内の積水ハウス
安積展示場に飛んでみた。
安積店にはシャイウッドと呼



積水ハウス郡山支店の内部では、今、何が起きているのか？

積水ハウスには、魔物が住んでいるのか！ 会社への恨みの遺言？は、何を意味する？！



積水ハウス 和田 勇 社長

ばれる木造住宅とグルニエ・ダインというコンクリート住宅の二棟が並んで展示されていた。店長が自殺したとされる建物は、どちらなのか分からなかったが、他のハウスメーカーや同プラザの案内所に尋ねてみたところ、十日間以上締め切った状態なのがシャーウッドハウスだということが分かった。自殺の件については、展示場全体のイメージダウンを恐れてか、店長が亡くなったことについては教えてくれないのだが、詳細については案内所のスタッフ、他のハウスメーカーの職員達も歯切れの悪い反

応だった。肝腎の積水ハウスのグルニエ・ダインの展示場は開いていて、若い女性社員が応対に出てきた。隣にあるシャーウッドハウスでの店長の自殺の件に関しては、話して良いのか悪いのか判断がつかない様子で、何かに怯えたように黙して語らなかった。さらに、匿名情報にあった郡山市朝日町にある「ハウジングパーク郡山」の積水ハウスの展示場セントレージ・ギヤラリーにも足を伸ばしてみると、若い男性社員がいた。しかし、安積店と全く同じで、全てに強張ったように、「私は入社して間もないため事情はよく分かりませんが、私の立場では何もお答えできません」と語るのみで、「一般に配布する広告チラシすら記者に渡してよいものかどうか迷っているらしく、困惑しきった様子だった。当然と云うべき

か、結局、現場にいた若手社員達からは具体的な情報は何も聞き出せなかった。そのため、郡山市不動前（インター線沿）の営業所や展示場を統括している積水ハウス郡山支店に支店長を訪ねてみたが、あいにく幹部社員は全員出張とのことと会えず終いだった。

箱口令を敷いた積水ハウス郡山支店

二月九日（月）、午後一時過ぎに改めて積水ハウス郡山支店へ訪ねてみると、総務課の増子総務長が「支店長不在のため私が対応します」とのことと取材に答えてくれた。

二月五日の初取材以来、土、日を挟んだ数日の間に、積水ハウス郡山支店内で起きていた不可解な自殺問題の概要は、ある程度把握できるところまで取材は進んでいた。それらを踏まえて次のような質疑をした。

ね。白河でも自殺者が出ていると聞いていますが。

増子 私はいわきから来てまだ一年なので、以前のことは分かりません。

本誌 安積の展示場（シャーウッドのこと）は閉めているようですが、何もなければ閉めておく必要はないのでは。

増子 あれは壊す予定なので、同一店に展示物が二つあるのはどうかというところで、見直しているところです。

本誌 しかし、鉄筋（コンクリートの意）と木造の二種類の物件を売っている訳ですから、その答えはおかしいのではないですか。

増子 社の方針ですから……。と、このようなやり取りがあった。その他話を尋ねてみたかったが、自殺すら病死とするなど、全てを隠そうとしている様子が

アリアリなため、それ以上の問答は無理と判断、支店長との面談の時間の調整をお願いして退席した。その後、午後六時過ぎに増子氏から記者に電話があり、

「取材に対する」担当は支店長ではなく私になりましたので。尚、今回の件は個人情報ですのでお答えできません」と告げられたのである。一応、記者も食いついて、「支店長のフルネームの文字はどう書くのか、間違った記事を書かないように確認のため教えて頂きたい」と申し出たが、増子氏は「それ以上お答えできません」と繰り返すばかりで電話を切られてしまった。

何故、単純な自殺であるならば、ここまで隠す必要があるのだろうか。堂々と事実として受け止め取材に応じれば良いのではないのか。隠せば隠す程、店長の自殺には問題性があった、と示唆しているように思えてならなかった。それにしても、本誌の取材窓口を部下に押し付けて、自分は陰に隠れている支店長（後に尾形昭昭氏と判明）は一体、どのような人物なのだろうか。

この後、寄せられた情報によると、積水ハウス郡山支店内では、コピーした本誌記者の名刺を全社員に渡し、「何を聞かれて

もタクティクスには何も答えるな」という箝口令を敷き、言論の自由を封殺しようとしていたということだった。また、何を

とち狂ったのか「タクティクスに脅迫されるかも知れないので、全てを弁護士対応としろ」という指示が上層部から飛んだ、という話も漏れ伝わってきている。開いた口が塞がらない、とは正にこのことだが、自分達に非がなければ、一店長の自殺という問題を何故ここまで隠そうとするのか。この店長の自殺の陰に一体、どんな魔物が住んでいるというのか。俄然興味をそえられるのだった。

住まいの博覧会前日の死は、店長の声なき訴えではなかったのか？

いくら積水ハウス郡山支店側

が鉄のカーテンを敷き、本誌に秘密を漏らすまいとしても、取材に動き出せば必ずと言ってよい程、情報が内外から寄せられる。積水ハウス側からは何の情報も頂けないため、多少正確さに欠ける部分も出るかも知れないが、一本の匿名電話が教えてくれた安積店の店長自殺の概要は、殆ど知ることが出来た。亡

くなったのはT・K氏で、明治大卒の四〇歳。郡山市富田町に両親、妻、子供二人の六人暮らしだった。

積水ハウス郡山支店では、一月十七、十八日の土、日の二日間、郡山市安積町日出山のビックパレットで「福島新春住まいの博覧会」という一大イベントを催したが、その前日の十六日（金）の朝、T店長は安積展示場のシャウウッドハウスの中で首を吊って亡くなっていったのだ。それを、出勤してきたシャウウッド担当の女性社員が発見された。驚いたこの女性社員は隣の展示ハウスの女性社員に声を掛けたが、あまりのショックにこの二人の女性社員達は半狂乱になり、後に「シャウウッドハウスにはもう行きたくない」とノイローゼ気味になってしまったと言われている。

T店長の遺書は、会社と身内へ当てたものが数通あったと言われているが、中でも会社に宛てたものの中身は恨みつもらみ書かれていた、と社内で噂されるようになっていったという。もちろん第三者には、その中身は何い知ることではできないが、支店の代表である尾形支店長は、遺書の内容を含め自殺の真相を

知っているのではないかと、とも社内では言われている。何故なら尾形支店長は、T氏が亡くなった後の社内の朝礼での訓示の際、「私はT氏の自殺の真相を知っている。知りたい者は私のところに来なさい」という内容を語った、

という情報が伝えられているからだ。これは、T氏の自殺が発端となり、社内に異様な空気が流れ始めたために、それを抑えようとした尾形支店長のある種のパフォーマンスだったのではないかと見られている。それにしても、支店を挙げた一大イベントの前日に自らの命を絶つという社絶な方法で何かの問題を訴えようとしたT氏の行動に、

同僚達の心境はどのように反応したのであるか。そんな中で「新春住まいの博覧会」は果たして、どれだけ盛り上がることであったのであろうか。安積展示場は、福島テレビハウジング部が経営管理する「FTVハウジングプラザ郡山」内にあるが、当然、積水ハウス側としても管理者たるFTV側に報告をしなくてはならない。F



店長が自殺したFTVハウジングプラザ郡山内のシャウウッドハウス。今はクローズしてある。

TVハウジング部によると、十六日午前中に積水ハウス郡山支店から「展示場内で、変事」があった」という報告があった、ということだった。あくまでも、その時は「自殺」という言葉は一言も伝えられていなかったという。一応、昼過ぎ頃、担当部長ら数人が安積展示場へ出向いたが、その時は若い社員が残っていたのみで、「店長が亡くなった」ということだけを知ったということだった。その足で、積水ハウス郡山支店に赴いたが、支店内は取り込み中で多忙を極めている様子だったので、それ以上の話は聞けなかったという。本誌の取材までは自殺だったとは知らなかった、ということだっ

たが、知らなかったというのではなく、わざと知ろうとしなかったのではなからうか。F.T.Vハウジング部の部長は、この辺のところを「展示場には積水ハウスのみではなく他社も多数出展していますから、私どもの方にも説明責任があります。すぐに出展会社に積水ハウスの店長が亡くなったことだけは報告しました。もし、自殺だったとしたらイメージダウンになることは充分考えられることですが、あくまでも分からなかったものから報告された。変事」を単なる死亡と受け止めたのだ、と語っている。

自殺者が相次ぐ理由は何か？

純な自殺ではないからこそ、本誌に対する過剰な警戒や反応が起ころのだろうし、積水ハウス側にはバレてはまずい何かがあるのではないかと考えさせられてしまうのである。

本誌は匿名電話の真偽を確かめるため更に取材を進めてみた。

「一年程前に朝日店長も自殺した」という情報から朝日店長を歴任した人物を追いかけてみた。驚くことに該当者がいたのである。一昨年暮れに西郷村の雪割橋から投身自殺をしたN・M氏(当時五一歳)だった。確かに「ハウジングパーク郡山」内の朝日展示場の店長を務めた経験があり、その後支店の営業課長という肩書きの人物だった。元矢吹町長の白坂氏によって自殺の名所となつてしまった雪割橋だが、N氏がそこまで運転していった車にはキチンと遺書があつたと言われる。

「白河でもスタッフが自殺している」という情報については、現在まだ確認が取れていない。白河にも「F.T.Vハウジング

ラザ」があり、積水ハウスもそこに出席しているという。この一二年の間に亡くなったスタッフがいろいろ、という情報も伝えられているが、果たして自殺なのかどうかは現段階では残念ながら分かっていない。また、西郷村で自殺したN氏も白河展示場に勤務していたことがあるらしいことから、同一情報の可能性もある。更に、「山形、仙台でも自殺している」という情報については、これも驚きの連続だが、数年前(現段階で時期は特定できず、いずれ明らかになることだろう)に山形営業所でAという課長が自殺している、というのだ。まるで嘘のような話だが、このように自殺者が相次ぐ会社などと言うのは本誌の知る限りでは聞いたことがない。本編が世に出れば更に詳細が伝えられてくることだろうから、自殺者の数や状況については、ほぼ正確に把握されることだろう。

大阪で首を吊って自殺した、というものだ。この件の時期も特定はできなかったが、約十年前の話だということだ。更に、寄せられた情報の中には亡くなった方(大阪で亡くなったY氏は除く)の少なくとも三人については、ある共通点があることが分かった。積水ハウス内の組織では、東北六県及び北海道の支店、営業所などを統括するのは、宮城県仙台市にある「東北営業本部」である。現在の部長は阿部俊則氏(五二)

情報として入ってきた。当時の阿部支店長が涙を流して申辞を読んだということだったが、この時、社員達は「殺したのは自分のくせに」と嘯き合つてシラケたムードになったと言われる。事の真偽はまだ鋭意取材中だが、このような情報があったことは紛れもない事実で、次号以下で明らかにしていきたい。

「一年程前に朝日店長も自殺した」という情報から朝日店長を歴任した人物を追いかけてみた。驚くことに該当者がいたのである。一昨年暮れに西郷村の雪割橋から投身自殺をしたN・M氏(当時五一歳)だった。確かに「ハウジングパーク郡山」内の朝日展示場の店長を務めた経験があり、その後支店の営業課長という肩書きの人物だった。元矢吹町長の白坂氏によって自殺の名所となつてしまった雪割橋だが、N氏がそこまで運転していった車にはキチンと遺書があつたと言われる。

代に部下として仕えたのがA課長だったという。営業成績を伸ばした阿部氏は次に郡山支店長となり辣腕を振るつたということだが、この時の部下にN・M氏やT・K氏がいたと言っているのである。聞けば阿部本部長は、社員達を踏み台に社内的に好成績を残し、出世街道を歩いてきたと言われているようだが、自殺したこの三人の方達とはどのような関係か。

あるハウス業界に詳しい人物に積水ハウスについて伺つてみた。「積水ハウスは業界ではダントツの一位の実績を誇つていました。しかし、一昨年、大和ハウスが合併して大きくなったため、うかうかしていられなくなりました。それだけに社員の売りに対するノルマも厳しくなり、



亡くなった方との共通点？
阿部俊則東北営業本部長

取材の端緒となった匿名電話には無かったが、郡山支店ゆかりの人物も自殺していることが分かった。現在の支店が昇格前の郡山営業所だった頃、所長を務めていたY氏が大出世して兵庫県神戸営業所の所長となったのだが、そこから転任する際に

取材の中で、N・M氏の葬儀の時の様子も

取材の中で、N・M氏の葬儀の時の様子も



ハウジングパーク郡山内にあるセントレジ・ギャラリー。元店長も亡くなっている。



FTVハウジングプラザ郡山には積水ハウスの展示ハウスが二つ並んで建っている。

て売上も上がっていましたが、今はこの不況で住宅も新築する人も少なくなっていますから、相当社内での締め付けが厳しかったのではないのでしょうか」と語り、彼らの自殺の遠因を予想している。

社は人間 愛、されど 社員愛は？

社員に物件を抱かせることも増えたはず。抱かせるとは社員自身が契約者となって家やアパートを買う、建てるということ。強制ではないでしょうが、ノルマを達成できなかったような時には、そうしないと社内ですら残っていけないのではないのでしょうか。だから、積水ハウスと言えば「社員に抱かせる」会社という言葉がすぐ出てくるようなイメージになっています。それは積水に勤めた経験者や、社員達が第三者にグチるからこそ、そんなイメージが定着してしまったのでしょうか。しかし、自殺者が出るというのは只事ではありませんね。四、五年前は住宅バブルなどと言われ

積水ハウスは、積水化学工業のハウスマターを母体として昭和三十五年八月、積水ハウス産業(株)として発足。建物、特に住宅の設計施工を主に、建物全般に関する事業を行っている。昭和三十八年に現社名に変更し、ハウスマーカーとして国内の業界をリードし続け、現在までの累積建築戸数は百六十五万戸を超えたとする。創業以来、社是に「人間愛」を掲げ、現在の和田勇社長となってもそれは貫かれていた。ハウスマーカーにはフランチャイズや現地独立法人などが多いのだが、積水ハウスは大阪市の本社を拠点とした全国組織で、先述したように北海道、

東北ブロックは仙台市の東北営業本部が統括している。特注住宅は元より、建て売りやアパート建築などにも幅広いユーザーズのニーズにはいち早く応えてきており、名実ともに日本一を誇るハウスマーカーとして君臨してきた。平成九年度の住宅バブルと言われた時の決算では売上高実に一兆三千六百億円を超えるなど、その輝かしい実績は他の追随を許していない。しかし、右肩上がりだった成長も頭打ちのようで、昨年度の売上は約一兆五百億円と、ここ四、五年はダウン傾向にあり、平成三年当時に逆戻りしている。これは、ここ数年の景気の後退などからくる日本経済の構造的なもの、大きく影響しているのだろう。それでも景気の減退に比して売上高の高水準を維持しているのは、支店や営業所の長たる幹部職員達の能力や手腕が優れているからだろうと言われている。

東北営業本部の中では、阿部現本部長が在任した当時の営業所、支店の成績が上がっていたため、その手腕が高く評価されたからトントン拍子に出世ができたのだろうと言われている。しかし、その反面、売上を維持

していくために、社員の負担増になったとも言われており、いくら企業トップが「人間愛」などと綺麗事を唱えていたとしても現場では、そんな悠長なこととは言っていられなかったのが現実のようだ。前出した事情通氏が語ったように、営業マンが目的の数値に達しない時には「抱かせる」という自己契約も止む無し、となるのだそう。どこのハウスマーカーでもよくある話だと言いが、特に積水ハウスはその傾向が顕著だという。今、積水ハウスのある営業所が市街地地域に農地を持つ農家を対象に、アパート経営を持ちかけ一大攻勢をかけている地域がある。長いスパンで見ればアパート経営など決して儲からないことを知っているが、融資側と結託して接待までして営業しているのだ。この問題は別の機会に詳報する予定だが、全ては売上という数字欲しさにやっていることだという。亡くなったN氏はアパートを二棟持っていたという情報も寄せられていて、阿部支店長(当時)の叱咤激励のもと、この数字合わせのため相当な苦勞をされてきたことが窺い知れる。